資料１１

平成２１年3月２９日

静岡県内外の災害ボランティアによる救援活動のための図上訓練

＜ 日 程 ＞

1日目

１０：００	関係者集合・会場設営
１２：００	設営協力者昼食
１３：００	受 付
１３：３０	開会挨拶　静岡県副知事　川口正俊 財団法人静岡県労働者福祉基金協会理事長　平野哲司 オリエンテーション
１３：５０	【第１部】東海地震で静岡県内の市町はどのような被害を受けるのか
１５：１０	休 憩
１５：２０	【第２部】時間の経過に伴い、被災者が求めるもの（ボランティア・ニーズ） はどう変化するか
１６：４０	休 憩
１６：５０	【第３部】「支援を求めている人々」とはどういう人々？ ー参加団体の普段の活動を通してー
１７：２５	事務連絡
１７：３０	終 了 エアテント設置デモンストレーション ・場 所　静岡県総合社会福祉会館１階（市民文化会館向い）
１８：００ （～20:00）	懇親会（意見交換会） 各地の名物を一品持ち寄り“ネットワークづくり”を！ ・会 場　ホテルシティオ静岡９階（TEL：054-253-1105）

2日目

【静岡会場】	
９：３０	オリエンテーション
９：４５	【第４部】“最初の１ヶ月”必要とされるのは、どんなボランティア？
１１：１５	休 憩
１１：３０	【第５部】“最初の１ヶ月”必要とされるボランティアの確保に目途はつくか？
１３：００	昼 食
１３：３０	ふりかえりとまとめ
１５：００	閉会挨拶　静岡県防災局長　小林佐登志 静岡県ボランティア協会常務理事　小野田全宏
１５：１５	終了、片づけ

【下田会場】

☆賀茂地区の県内参加者と、神奈川県からの一部参加者の方は、2 日目の訓練を下田で行います。ＮＴＴ静岡支店にご協力いただき、静岡と下田の会場を結んで同時に訓練を進めます。

◇会 場:静岡県下田総合庁舎３階 4～6 会議室(下田市中 531-1　TEL:0558-24-2150)

◇時 間:9:30～15:15

◇静岡から移動する人は…

7:03 静岡発（新幹線）ー　熱海（乗換え）ー9:26 伊豆急下田着　徒歩約 10 分

下田会場集合の参加者と合流次第、訓練を始めます。

第４回
静岡県内外の災害ボランティアによる救援活動のための図上訓練

実施日：平成 21 年 2 月 21 日(土)・22 日(日)

会　場：静岡市民文化会館 A展示室・B展示室(両日)

静岡県下田総合庁舎 3 階 4～6 会議室(22 日)

主催・共催 ： 静岡県、(特活)静岡県ボランティア協会、(財)静岡県労働者福祉基金協会
協　　力 ： (社)静岡県社会福祉協議会・市町社会福祉協議会
西日本電信電話株式会社静岡支店、静岡県労働者福祉協議会
実 施 主 体 ： (特活)静岡県ボランティア協会
東海地震等に備えた災害ボランティアネットワーク委員会
協　　賛 ： 米久ベンディング株式会社、ダイドードリンコ株式会社、株式会社伊藤園

資料１

第4回静岡県内外の災害ボランティアによる
救援活動のための図上訓練

「三想定」と「教訓集」を踏まえ
災害ボランティア活動のイメージを共有化し
組織のあり方とスタッフ人事を考える

2009年2月21日、22日
於　静岡市民文化会館　展示室A　他

1

第二次三ヶ年計画の
初年度がスタートします

2

今年度の狙い

- 「三想定」と「教訓集」を踏まえ、災害ボランティア活動のイメージを共有化し、組織のあり方とスタッフ人事を考える。
- 離れた拠点（今回は下田会場）との情報共有のあり方をリアルに検証する。
- （特に県社協からの参加者の方へ）地域の情報を県本部に伝えられるか。さらに情報を集約して全日本・東西本部に伝えられるか。

3

（特に2日目の下田会場との
連携について）

- 下田会場で下田センターの組織化を図るが、その状況を本部会場とうまく共有できるか。
- 下田センターに入る県外ボランティアの役割を確認し、全日本、東西本部と情報面でうまく連携ができるか。

4

キーワード

「受援力」
（援助を受ける「わざ」）

5

【参考】第二次三ヶ年計画についての
来年度以降の世話人会イメージ

- ノウハウの「横展開」を図る
- ノウハウのフィードバックを図る

- 二年度
  - 支援センターの役割についての理解を深める
  - 本部と4支援センターを同時に立ち上げ、相互の連携を具体的に検証する
  - 県外からLO（連絡幹部）として現地に入る人材の能力育成を図る

6

【参考】第二次三ヶ年計画についての来年度以降の世話人会イメージ

- 三年度
  - 本部と四支援センター、全日本、東日本、西日本のセンターを同時に立ち上げ、相互の連携を具体的に検証する。
  - 静岡県内で（モデル的に）支援センターと市町センターを同時に立ち上げ、相互の連携を検証する。
  - 県外に後方支援センターを立ち上げ（たとえば小田原に）、県内との連携を検証する。

7

中長期的な課題

- 東海、東南海、南海地震の連動を想定した、広域連携のあり方を具体的に検討する。
- 首都直下等の、具体的な検討課題となっている地震災害などへの救援計画を立案・検証する。

8

訓練開始に当たってのお願い

- グループ毎に司会者と記録者を決めておいて下さい。
  - セッション毎に交代して下さい。
- デジカメで写真を撮りましたら、事務局までデータの提供をお願いします。
- メモ用紙を配りますので、提出をお願いします。
  - セッション、グループ名の記入をお願いします。

9

第1部のねらい

古人曰く
敵を知り、己を知らば、
百戦危うからず

10

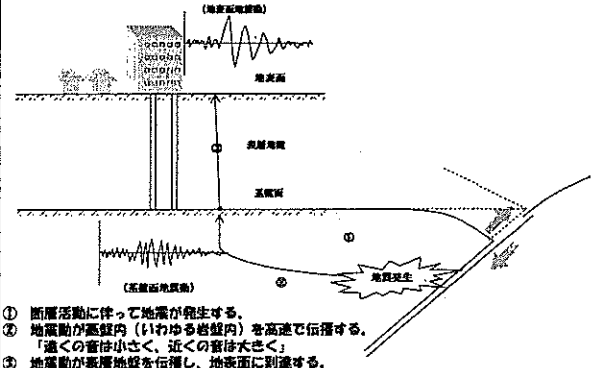
①「東海地震は、阪神・淡路大震災などとは、異なるタイプの地震なのだ」ということを理解する。
- 決定的な差は強震域の広さ！
- 中越、能登半島、中越沖、岩手宮城内陸等とは大きく異なる。これらは局地災害。東海（東海・東南海・南海は広域、スーパー広域災害）

②静岡県内の大まかな被害のイメージを持つ。
- 震度7・震度6強の揺れに襲われる市町／停電・断水・トイレ被害／鉄道・道路・港の被害／その他

③地元市町（あるいは救援活動に赴く市町）の被災イメージを描き出し、共有化する。
- ベースの地図は「よんさん印刷」によりました

11

地震動伝播のメカニズム



① 断層活動に伴って地震が発生する。
② 地震動が基盤内（いわゆる岩盤内）を高速で伝播する。
「遠くの音は小さく、近くの音は大きく」
③ 地震動が表層地盤を伝播し、地表面に到達する。
このとき、一般に短周期成分は減衰し、長周期成分が増幅する。「地盤が軟いところはよく揺れる」

Special Thanks to Systemsoft Co.,Ltd.

覚悟しておくべき事柄の例

- 駿河湾・遠州灘の沿岸部は津波で大きな被害を受ける
  - 特に沼津市南部や西伊豆は壊滅的な被害を受ける。
  - 港湾は漂流物で相当長い期間使用不能では？
- 富士川を境に大規模な段差が生じるため、東西交通幹線は月単位で通行不能となる。
  - 仮橋ができ緊急車両のみ通過可能になるのにも1週間？
- 県内の災害拠点病院（18か所）はいずれも甚大な被害が生じ、医療行為はほぼ不可能（と思われる）。
- 等々
  - 事前学習の資料を元に、皆さんで議論し、お互いのイメージを共有化して下さい。

13

○○市（町）の被災イメージ

（最大震度○　死者○○　重傷者○○　要救助者○○　建物全壊率○○%）

14

グループで
司会者と記録者の互選を
お願いします

15

ポストイットへの記入にあたり

- 第三次被害想定と皆さんの土地勘から想像される状況を、可能な限り具体的に描き出して下さい。
- できるなら「地名・施設名」「人数」「個数」「期間」といった、具体的な（量的な）状況も書いて下さい。

16

震度の違いと対応の原則（試案）

あなたの市町はどれに当てはまりますか？

震度	対応の原則
震度7 震度6強	SOSの声を上げよう！受け皿づくりを考えよう！もちろんやれることはやるけれど。 （外部から、すぐに、十分な数のボランティアが来てくれるとは期待できないけれど……。）
震度6弱	自分の地域は自分で何とかしよう。 （最初のうちは、外部からの救援は、震度7・震度6強の地域にまわってもらおう。私たちの地域に来てもらっては申し訳ない。）
震度5強以下	助けに行こう！ （私のまちは何とかなる！というよりも大きな被害は出ていない（はず）。高いビルがなければの話だけれど……5階上ると震度が一つ上がるイメージ。）

17

小村が考える地震防災の基本
「分散のイメージ」を持つこと！

その建物は
その揺れに耐えられるか

その場所は
どのくらい揺れるか

18

もう少し詳しく説明するならば…

＊チェックすべきもの：全壊率テーブル（各種あり）
＊チェックしておくこと：①あなたの家は何年に建てられたものか、②あなたの家は木造か、非木造か、何階建てか、瓦屋根かどうか、壁のない面があるかないか

＊チェックすべきもの：静岡県地震防災センターのホームページの「東海地震に関する第三次被害想定」市町別・町丁目別被害想定
(http://www.o-quakes.pref.shizuoka.jp/data/pref/Higai/data/index.html)
＊チェックしておくこと：その場所の揺れは、①震度7か、②震度6強か、③震度6弱以下か

19

第2部 （1520～1640）

時間の経過に伴い、被災者が求めるもの（ボランティア・ニーズ）はどう変化するか

20

第2部のねらい

「このつぶやきの背景には何があるのだろうか」を考えたい

21

まずは、事前課題のワークシートのイメージを共有し、深めたいと思います

	72時間 ～ 1週間 ～ 2週間 ～ 1か月 ～ 3か月以降
被害イメージ	
復旧・復興活動のイメージ	
被災者のニーズ（＝期待される役割）	
ボランティアを「仕掛ける」側に求められる役割（例：市町社協等）	
考えられる課題／その他	

第2部 作業の流れ

① 地域の実情を踏まえ、事前課題をグループ毎に模造紙にまとめて下さい。個人では埋められなくても、皆さんで議論すれば、かなりの部分はイメージを持つことができると思います。

② 模造紙に書かれた「つぶやきの背景にあるもの」、資料に現れたボランティアニーズの「本当の原因（Root Causeと英語で表記されます）」がどこにあるのかを、ぜひ、議論してみて下さい。

③ その「背景にあるもの」「本当の原因」を解消するための、地域の資源、人材（人財）は、掘り起こされていますか？つながっていますか？

23

第2部の議論を深めるために

【参考事例】

静岡県富士市大渕に、静岡県の精神障害者の入所施設「富士見学園」があります。その園長先生から、災害時を想定し、地域の大学（しかも保育学部を持つ！）である富士常葉大学と連携を持ちたい、との話がありました。

100名を超える入所者に対して、夜間の職員はわずか4名とのこと。「災害時にどうしたらよいのだろうか・・・」との問いかけでした。

恥ずかしながら小村には、答えることができませんでした。

24

お願い

第2部と第3部の休憩時間をして、第1部、第2部の議論の成果を共有したいと思います。各グループ、上下に貼って下さい。

25

第3部 （1650～1725）

「支援を求めている人々」とはどういう人々？
-参加団体の普段の活動を通して-

26

第3部のねらい

「支援を求めている人々」とは
どういう人々だろうか？
そして、私たちは、地域の資源を、人材（人財）を、
どこまで掘り起こし、つながっているだろうか？

27

栗田さんより

- （栗田）（被災から）1週間、2週間、3週間という活動の中で、どのようなボランティア活動が必要なのか？
- （静岡：〇〇さん）今日のテーマが、受援力とあった。この受援力が大変なんだということがわかった。自助。町内会の一員でもある。自助をやってから、ボランティアセンターを立ち上げ、外から来る人を受け入れ、となると、どのくらい、時間がかかるのか。

28

- （藤枝：吉野）3回目の参加になる。今日、一番議論したのは、被災者からのニーズであった。見えないところ、社会的な弱者について議論した。持ち帰って、具体的に、行政とも協議しつつ、要支援者の避難所（運営）も含めて議論しないと、また、特別養護老人ホームも含めて議論しないと、うまくいかないなぁ、と思った。

29

- （栗田）普段から、弱者をサポートしているネットワークとの関係、役割分担について、議論があっただろうか？
- （焼津：とよいずみ）手話の方、ボランティアの方々同士との連携をしていきたいと思っている。ただ、活動までは行っていない。
- （栗田）（県内参加者からの議論を整理するならば）ボランティアと自主防、要援護者との関係が重要とのことであった。

30

- (栗田)県外チームでは、どのような議論があったか。どのような方々をイメージした上での議論であったか？
- (名古屋:岡田)特定の人にしぼっての議論ではなかった。
- (栗田)被災者というと、全体的なイメージなのか？ボランティアセンター？避難所？
- (岡田)ルートを探したり、静岡西部への避難所を目指して、であった。

31

- (栗田)被災者支援というと大きなくくりであるが、どこを目指せばよいのか？ボラセン？避難所？という議論があったと思う。
- 要援護者というテーマであったが、平常時からネットワークを持っているというところがあれば、話をお願いしたい。福祉ボランティアの活動をやっているところがあれば。

32

- (御前崎:落合)福祉会の方々と避難訓練をしたりしている。要援護者の減災を考えるシンポジウムを企画したり。本人達から「知ってもらいたい」との声があり、関わりを持つようになっている。
- (清水:大石)立ち上げ当初から、福祉団体が構成員として入っている。組織が、障害を持った方々による「自分たちはどうしたらよいのだろうか？」との声で立ちあがったので。
- (栗田)県外では？

33

- (大分県:国東市:藤原)小地域単位で、ネットワークを組んでいる。その中で、要援護者をピックアップして、定期的に会議を開き、災害が発生した時にどのような支援があるのか、避難誘導、災害時だけでなく、一人暮らしの方々の見守りをしている。地域の方々が作っている運営を社会福祉協議会が支援している。

34

- (栗田)災害ボランティアという言葉を知らない市民も多い。知ってもらうのに時間がかかった。地縁組織との交流の必要性。自治会でもありボランティアでもあり、という方々がいたが、この関係をどう考えればよいか？
- (富士宮:塩川)先日、上野地区という富士宮の中で、避難所体験訓練を行った。住民、社協、ボランティア、行政と一体で行った。

35

- (浜松:鵜飼)小さな地域のことであるが、かみ地区社協、そこでボランティアをしてくれている方々に、災害時にはボランティアをして下さいね、という活動をしていた。自治会＝自主防＝地区社協、であり、災害対応ネットワークを作った。自主防災の担当から民生委員、各種団体の方々、医療系、そういう方々全部に手紙を出し、80名近くの方々が集まってくれた。災害時には、自主防の訓練時には必ずボランティアセンターの立ち上げ訓練もしている。

36

- ボランティアを理解して、やっていけそうな自信がある地域は？（浜松のみ）
- （栗田）これから、という地域・組織は？
- 目指すべき方向は、受援する組織との課題、災害時要援護者という方々との関係性の構築、気づいている方々はおられるが、具体的には？
- （清水：？？）障害者団体がいくつもあるが、「やじろべえ」という聴覚障害者向け団体。冊子を作ったり、かるたを作ったり。一人について何人が援護するのか、という活動をしている。

37

- （栗田）何に被災者が困るか、というと、家が大丈夫かという判断がつかない、ゆえ、建築士との連携。保健師、体操よりも介護をしなくてはならない方々がいる。ヘルパーの全国派遣、という課題が出てきている。
- 自分たちの地域は自分たちで守る、という話にはなっている。
- 被災された方々が「助けて！」と言える環境をどう作っていくか。その一翼を担うのがボランティアである。地域の方々に、「（支援を）受けてもよいのだ」という意識を作る必要あり。

38

- （栗田）目指すべき相手は誰なの？誰を支援していくの？このことを常に考えた訓練であるべき。
- 受援力、そして誰が対象なのか。そのことを常に意識すべき。

39

2日目オリエンテーション＆1日目のふりかえり

40

- 私たちはどこまで、東海地震の被害様相を、具体的にイメージできているか。
- 私たちはどこまで、被災者が求めるものを理解しているか。
  - そもそも被災者とは誰か。私たちは、普段は社会の表に出てこない方々まで、目配りできているか。

41

特に第3部のまとめから

- 受援力（支援を受ける「わざ」）とは何か
  - 被災を受けた方々が「助けて！」と言える環境（雰囲気）を作っている一翼を担うのがボランティアではないか
  - 私たち災害ボランティアは、地縁組織とどこまでつながっているか
- 誰を支援すべきなのか
  - 私たち災害ボランティアは、要援護者とネットワークを組んでいるか
- 私たちが目指すべきはどこか（誰か、何か）
  - 避難所？ボラセン？そこで何を担うのか？

42

災害ボランティア向け
研修プログラムの標準形としての
第1部・第2部（事前課題1、2）

①地域の地図と被害想定をしっかり読みこみ、
考えられる被害の具体的なイメージを持ち、
②被災者の生活をイメージし、
被災者が求めるものの変化を先取りする

43

今回の頭上訓練（ワークショップ）の
特徴（留意事項）

44

- いわゆる「ロールプレイ」はしません。状況付与も行いません。即断即決を求めるものでもありません。
  - 被災イメージを持つこと、被災生活とそこで足りないものをイメージすること、行政・ボランティアの役割・役割分担をイメージすること、等々に重きを置いています。
- 何が課題なのかを「洗い出し」「見える化」「共有化する」ことを目標とする「頭の訓練」です。
  - 今は、対応を決めるよりも、被災の状況をイメージすること、働きかけるべき相手をイメージすること、組織化のイメージを持つこと、といったことに取り組むべき段階です。

45

第4部 （0945～1115）
静岡会場

“最初の1ヵ月”必要とされるのは、
どんなボランティア？

46

第4部 （0945～1115）
下田会場

第1部～第2部、特に下田市、賀茂郡の被災状況を改めて確認し、支援センターの役割を探る。

47

特に神奈川の人で22日のみ
下田会場に参加する皆さんへ

- 下田市と賀茂郡地域の被害は、皆さんが想像しているよりもはるかに深刻だと思います。
  - 下田市中心部の津波被害
  - 域外とのアクセス路（国道135号、伊豆急）の遮断
  - 域内市町間のアクセス路の遮断、等々
- でも、アクセス路の状況がどうであれ、下田・賀茂に支援の手を差し伸べられるのは、現実的には神奈川県勢しかありません。神奈川県勢が動かない限り、この地域への支援は、極めて乏しいものとならざるを得ないのではないかと思います。

48

神奈川県の皆さん（特に植山さん）、
下田・賀茂はよろしくお願いします

49

さて、ここで全社協渋谷さんに
ご登壇いただきたく思います

厚生労働省「これからの地域福祉のあり方に関する研究会」の報告書から

50

この議論をぜひふまえつつ

あとはしばらくお互いに議論しましょう
（1105になったら、状況を共有しましょう）

51

第4部（前半）の作業の流れ

① 配布資料の読み込みをお願いします。（特に、資料下部の「住民組織」にご注目下さい。）

・ここに触れられている以外にも、多くの地域のネットワーク（地域の資源、人材・人財）があると思います。それらをポストイットに洗い出して下さいませんか？

② 社会福祉サービスの利用者であるかないかを問わず、さまざまな困難（≒課題≒ボランティアのニーズ）があると思います。それらをポストイットに洗い出して下さいませんか。

③ 地域の資源、人材（人財）と、彼らに期待したい役割を、模造紙に整理してみて下さい。

52

○○市町における地域の資源、人材（人財）を考える
（改訂版）

組織・団体	期待したい役割		組織・団体	期待したい役割	

※ 試みに、組織・団体との関係の深さを、◎、○、△、×で示してみて下さい

53

議論を進めるにあたり
ぜひ踏まえておいていただきたいこと

- 地元で必要なことは、本当は地元でやるべき。つながっていない地域の資源、人材（人財）を活かさずに、たまたまつながった外部資源を使う、という話はないよね？
- 最初の1ヵ月で話は終わらない。復旧・復興に向け、中長期的に、さまざまな地域の資源、人材（人財）の「掘り起こし」を意識しないと！
- 地域の人材（人財）の「掘り起こし」をしたとしても、地域の被災を考えると、域内での人材の自給はどこまで可能だろうか？

54

○○市町における災害時のボランティアニーズの概況
（特に、特別な技能やノウハウ、資格を意識しつつ）

必要とされる技能（技術、ノウハウ等）	必要人数	現状で直結可能な人数（2週間後）	掘り起こし後なら直結可能な人数（2週間後）	掘り起こし後なら直結可能な人数（1か月後）	掘り起こし後なら直結可能な人数（1か月後）	掘り起こし後でも不足する人数（2週間後）	掘り起こし後でも不足する人数（1か月後）
xxxxxx							
xxxxx							
xxxxxx							
xxxxxx							
xxxxxx							
xxxxxx							
xxxxxx							
xxxxxx							

55

地域の「掘り起こし」にあたり

- 一般系と専門職系に分けて整理してみた
  - 一般系：警察・自衛隊OB
  - 専門系：医療、運送業、飲食業（炊き出し）、JC、
- 地域性に鑑みて、通訳ボランティアが必要（浜松市の場合）
  - 地域に3万人の外国人がいる。通訳ボランティアが300人くらい必要。100人くらいならいるし、中学生を掘り起こして100名を確保。でも100名不足。
- 精神障害をお持ちの方々への対応が難しい。

56

第5部 （1130～1300）

“最初の1か月” 必要とされる
ボランティアの確保に目途はつくか？

57

【試案】ボラセン立ち上げの定義
（今日はこれでやらせていただきます）

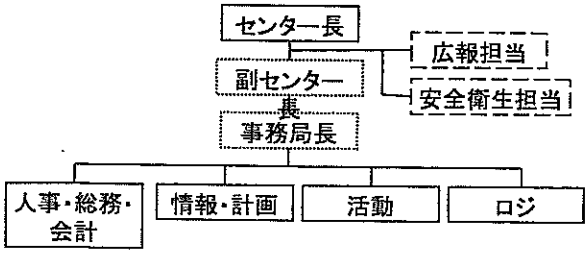
【レベル1】センター長＋4役が揃うこと（5名が揃ってボラセン立ち上げと、暫定的に定義）

【レベル2】出来れば、センター長＋4役＋2専門が揃うこと

【レベル3】願わくば、センター長、副センター長、事務局長、4役、2専門が揃うこと

58

ボランティアセンターの組織図
（静岡図上訓練用：ICSの考え方に基づくもの）



59

○○市町ボランティアセンター
スタッフローテーション表

センター	正候補者	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	3w	4W
【センター長】																	
（副センター長）																	
（事務局長）																	
《広報》																	
《安全衛生》																	
【人事・総務・会計】																	
【情報・計画】																	
【活動】																	
【ロジ】																	

60

支援センターと同支部、管内市町

	担当地域防災局（地域本部）	支援センター	同支部（案）	管内市町
東部	東部地域防災局（沼津市）	東部センター（沼津市）	熱海支部	熱海市、伊東市
			富士支部	富士市、富士宮市、芝川町
			（御殿場支部）	（御殿場市）、（小山町）、（裾野市）、（沼津市）、（三島市）、（伊豆市）、（伊豆の国市）、（函南町）、（清水町）、（長泉町）、
			センター支部	沼津市、三島市、御殿場市、裾野市、伊豆市、伊豆の国市、函南町、清水町、長泉町、小山町、
中部	中部地域防災局（藤枝市）	中部センター（藤枝市）	静岡支部	静岡市
			センター支部	島田市、焼津市、藤枝市、牧之原市、吉田町、川根本町
西部	西部地域防災局（磐田市）	西部センター（磐田市）	浜松支部	浜松市
			センター支部	磐田市、掛川市、袋井市、御前崎市、菊川市、森町、新居町
賀茂	賀茂地域防災局（下田市）	賀茂センター（下田市）	—	下田市、東伊豆町、河津町、南伊豆町、松崎町、西伊豆町

ふりかえりとまとめ

- 簡単に、各グループから議論の経過を紹介してもらいたいと思います。
- その後、ディスカッションに移ります。ディスカッションのテーマは、「受援力（援助を受ける「わざ」）をメインテーマとし、①地域内で掘り起こ＆つながるべきもの、②全国で掘り起こす＆つながるべきもの、を語る中で、普段の、そして来年の再会までの、私たちの課題を確認したいと思います。

62

県内参加者の皆さんへ 1グループ1分以内で完結に！

- あなたの市町のボラセンは何日で【レベル1】の立ち上げが可能でしょうか？
- あなたの市町から、地域の支援センターにスタッフを派遣できるようになるのは、何日目からでしょうか？
- あなたの市町で掘り起こすべき、つながるべき相手の主なもの3つをご紹介下さい。

63

県外参加者の皆さんへ 1グループ1分以内でお願いします

- 掘り起こすべき相手、つながるべき相手について、ご紹介下さい

64

（作成：富士常葉大学環境防災学部准教授　小村隆史）

資料２

第4回静岡県内外の災害ボランティアによる
救援活動のための図上訓練・下田会場

「三想定」と「教訓集」を踏まえ
災害ボランティア活動のイメージを共有化し
組織のあり方とスタッフ人事を考える

2009年2月22日
於　静岡下田総合庁舎

テーブル設営

- 下田市の皆さん
- 東伊豆の皆さん
- それ以外の地元の皆さん
- 神奈川の皆さん

（賀茂の3テーブルに、一人ずつ情報要員を派遣してください）

中央の支援センターテーブルは
最初はあけておきます

第4回静岡県内外の災害ボランティアによる
救援活動のための図上訓練・下田会場

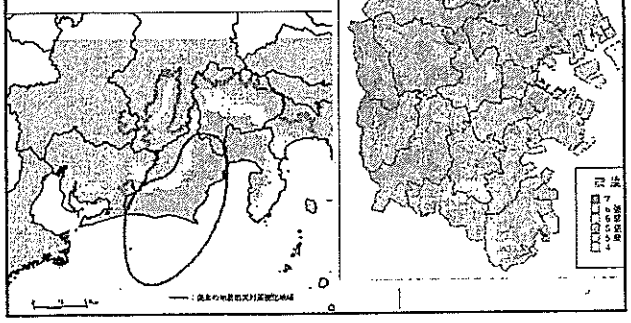
「三想定」と「教訓集」を踏まえ
災害ボランティア活動のイメージを共有化し
組織のあり方とスタッフ人事を考える

2009年2月22日
於　静岡下田総合庁舎

今日の訓練の特徴（留意事項）

- いわゆる図上訓練やロールプレイではありません！
  - 被災イメージや行政・ボランティアの役割・役割分担のイメージが十分でもないのに、「○○という状況です。どうしますか？」を語ることにどんな意味があるのですか？
- 何が課題なのかを「洗い出し」「見える化」「共有化する」ことを目標とするワークショップです。
  - 答え（対応案）は求めません！課題そのものと、その課題を具体的に検討するために必要な情報について、考えていただきたいと思います。
- 地図はイメージの共有のために使うだけです。市単位などの小グループで、同時並行で課題に取り組んでいただきます。
- 司会役、書記役（模造紙など）、記録役（事後検証のために議事録メモを残す人）を決めて下さい。

どんな状態に陥るか？



震度の違いと対応の原則（試案）

あなたの市町はどれに当てはまりますか？

震度	対応の原則
震度7 震度6強	SOSの声を上げよう！受け皿づくりを考えよう！もちろんやれることはやるけれど。 （外部から、すぐに、十分な数のボランティアが来てくれるとは期待できないけれど……）
震度6弱	自分の地域は自分で何とかしよう。 （最初のうちは、外部からの救援は、震度7・震度6強の地域にまわってもらおう。私たちの地域に来てもらっては申し訳ない。）
震度5強以下	助けに行こう！ （私のまちは何とかなる！というよりも大きな被害は出ていない（はず）。高いビルがなければの話だけれど……5階上ると震度が一つ上がるイメージ。）

特に神奈川の人で 下田会場に参加する皆さんへ

- 下田市と賀茂郡地域の被害は、皆さんが想像しているよりもはるかに深刻だと思います。
  - 下田市中心部の津波被害
  - 域外とのアクセス路(国道135号、伊豆急)の遮断
  - 域内市町間のアクセス路の遮断、等々
- でも、アクセス路の状況がどうであれ、下田・賀茂に支援の手を差し伸べられるのは、現実的には神奈川県勢しかありません。神奈川県勢が動かない限り、この地域への支援は、極めて乏しいものとならざるを得ないのではないかと思います。

昨日のことですが

- 「神奈川は3週間たたないと行けない」
- 「それじゃあ役に立たない」
- 「じゃあ無理かな」

昨日のことですが

- 「神奈川は3週間たたないと行けない」
- 「それじゃあ役に立たない」
- 「じゃあ無理かな」

夜のパーティーで辞令交付式

- 小野田@静岡→植山@神奈川

「神奈川災害Vに賀茂支援センターの外部支援を委嘱する」

実は昨年12月の小田原訓練

実は昨年12月の小田原訓練

【藤沢】すぐに調整して情報班を派遣。1週間には交代して派遣。1ヶ月後、長期支援ができるよう、藤沢のVCでもがんばりたい

【秦野市】被害状況によるが、1週間後には支援センターに行けると思う

【横須賀】1週間後には、連絡要員1名程度、交代しながら派遣できる。

キーワード

「受援力」

(援助を受ける「わざ」)
を一緒に考える

訓練開始に当たってのお願い

- グループ毎に司会者と記録者（議論の議事録）と模造紙編集の担当者を決めておいて下さい。
  - セッション毎に交代して下さい。
- デジカメで写真を撮りましたら、事務局までデータの提供をお願いします。
- 議事メモ用紙を配りますので、提出をお願いします。
  - セッション、グループ名の記入をお願いします。

第1（4）部のねらい

古人曰く
敵を知り、己を知らば、
百戦危うからず

小村が考える地震防災の基本
「分数のイメージ」を持つこと！
井野さんの宿題

その建物は
その揺れに耐えられるか

その場所は
どのくらい揺れるか

○○市（町）の被災イメージ
（最大震度○　死者○○　重傷者○○　要救助者○○　建物全壊率○○％）

グループで
司会者と記録者の互選を
お願いします

神奈川から派遣された情報要員は、地元の議論に口を出さずに外部の立場で耳をすませてどういう議論をしているか、神奈川に報告するための情報を集めてください。

第1部（0945～1030）

時間の経過に伴い、被災者が
求めるもの（ボランティア・ニーズ）は
どう変化するか

ミニマムは大丈夫!?

仕組みがあるところは仕組みで動くはず。
（外から入るためにどういう情報が必要か）

賀茂のみなさんは事前課題のワークシートでイメージを共有し、深めたいと思います

	発災直後 ～ 1週間 ～ 2週間 ～ 1か月 ～ 3か月以降
被害イメージ	
復旧・復興活動のイメージ	
被災者(地元)のニーズ(＝期待される役割)	
支援センターの役割	
考えられる課題／その他	

神奈川県のみなさんは賀茂のニーズを考えます

	発災直後 ～ 1週間 ～ 2週間 ～ 1か月 ～ 3か月以降
被害イメージ	
復旧・復興活動のイメージ	
賀茂地区のニーズ(＝期待される役割)	
支援センターの役割	
考えられる課題／その他	

作業の流れ

① 賀茂の皆さんは、地域の実情を踏まえ、事前課題をグループ毎に模造紙にまとめて下さい。個人では埋められなくても、皆さんで議論すれば、かなりの部分はイメージを持つことができると思います。

② 模造紙に書かれた「つぶやきの背景にあるもの」、資料に現れたボランティアニーズの「本当の原因(Root Causeと英語で表記されます)」がどこにあるのかを、ぜひ、議論してみて下さい。

③ 神奈川の皆さんの情報要員は、10時15分になったら、神奈川テーブルに戻って、被災地の議論をつたえて下さい。

模造紙の仕上がりイメージ

第2部 (1035～1105)

支援センターの役割って何？

各テーブルごとに考えてみてください。
情報要員はまた取材しておいて下さい。

被災者ニーズを考えながら、支援センターの役割を考えます

	1週間 ～ 2週間 ～ 1か月 ～ 3か月 ～ 6か月、1年以降
被害イメージ	
復旧・復興活動のイメージ	
被災者のニーズ(＝期待される役割)	
支援センターの役割(それぞれの立場から)	
考えられる課題／その他	

支援センターとは何か？

- 下田・井田
- 支援本部の議論か支援センターの議論かがややこしかった。支援センターは、ボランティアのコーディネートやマッチングはしない。市町の支援本部が困ったことを調整したり、県との間をつないだりする役割。それが混乱していた。

第2(5)部 (1130～1300)

私たちは、地域の資源を、人材(人財)を、どこまで掘り起こし、つながっているだろうか？

資源リストを作ります！

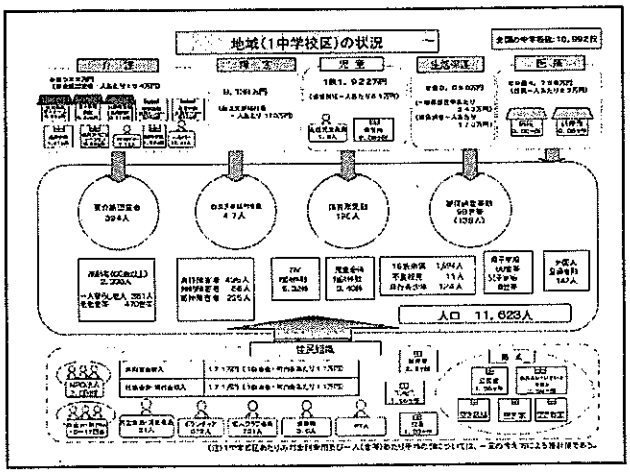
ニーズってなに？

- 考えたニーズの「背景にあるもの」「本当の原因」を解消するための、地域の資源、人材(人財)は、掘り起こされていますか？つながっていますか？

第2(5)部の作業の流れ

① 配布資料の読み込みをお願いします。(特に、資料下部の「住民組織」にご注目下さい。)

② 社会福祉サービスの利用者以外にとっても、さまざまな課題(ニーズ)と、それを支える社会的仕組み(資源)があります。



第2(5)部の作業の流れ

① 配布資料の読み込みをお願いします。(特に、資料下部の「住民組織」にご注目下さい。)

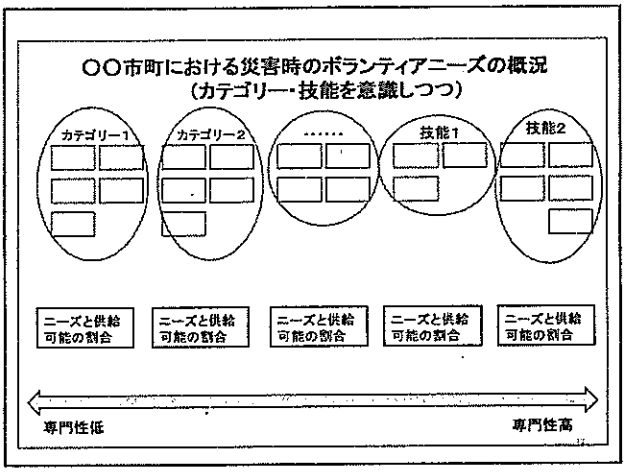
② 社会福祉サービスの利用者以外にとっても、さまざまな課題(ニーズ)と、それを支える社会的仕組み(資源)があります。

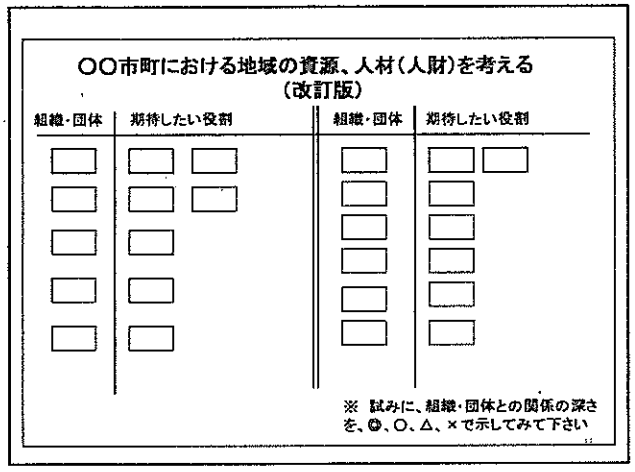
- 福祉以外にも、多くの地域のネットワーク(資源、人材・人財＝団体、組織、士業種、仕組み)があると思います。それらをポストイットに書き出して下さい。外部から入るために使える資源も！

③ポストイットには具体的な役割を文章で書き出して下さい

- 誰に対してどんな役割があるか。

④ 1(4)部の議論で描き出された被災状況や地域の資源、人材(人財)に鑑みて、②③のカテゴリー別、技能別の過不足を見積もって下さい。





議論を進めるにあたり
ぜひ踏まえておいていただきたいこと

- 地元で必要なことは、本当は地元でやるべき。つながっていない地域の資源、人材(人財)を活かさずに、たまたまつながった外部資源を使う、という話はないよね？
- 最初の1ヵ月で話は終わらない。復旧・復興に向け、中長期的に、さまざまな地域の資源、人材(人財)の「掘り起こし」を意識しないと！
- 一方で、地域の人材(人財)を踏まえ、他方で地域の被災状況を踏まえ、まずは最初の1ヵ月、重要と供給の不均衡は、どの程度のものになるだろうか？

(作成：富士常葉大学環境防災学部准教授　小村隆史)
(作成：時事通信社編集委員　中川和之)

資料３

県外ワーク

第4回
静岡県内外の災害ボランティアに
よる救援活動のための図上訓練

1

県外チームの構成

西日本1
愛知県中心

西日本2
愛知県以外

東日本1
明日下田に
行かれない方

東日本2
明日下田に
行かれる方

世話人：村井（全日本）
中川・白鳥（東・北日本）
栗田（西日本）

（静岡県本部）

全日本
亀山・水島・波谷・
根本・松田宣・鈴本・
岡坂・竹内・君嶋・
鈴木隆・楠・村野

北日本
山梨・山形・新潟

2

第1部（14:10頃～15:10）

- 様式1（どんなまち？）に基づき自己紹介
- 様式2（被災イメージ）・様式4（予測できる状況）について意見交換

◇目標
県外支援者として、自ら住む町の被災状況をイメージしつつ、具体的にどのように被災地（静岡県）に支援に向かうかを考える。

3

第2部（15:20～16:40）

- 様式3（災害のイメージ）に基づき、そのために必要な人・物・金・情報などについて考える。
- バックヤード（後方支援拠点）の具体的な候補地、必要な機能について考える。
- 全日本・東・西・北との相互情報、静岡県本部からの情報（入手方法や何を聞くか）も考慮して考えてください（各班で情報班を作ってください）。

◇目標
被災地のニーズを先読みして、支援に必要な具体的な対策を構想する。

4

第4部（09:45～11:15）・90分
第5部（11:30～13:00）・90分

- 人材バンクづくり。
- 時期・アクセス路などを鑑み、人材の固有名詞をあげてみる。
- 例えば、アレルギー、ヘルパー、建築士、ペット、法制度、ヘリ、移動サービス、配送、炊き出し、医療・看護、カウンセリング、原発問題・・・。
- これら人材を有効に活動していただくためのバックヤード（後方支援拠点）の機能を列挙してください。

◇目標
抽象的な「県外からの応援」から、具体的にいつ、誰が、どんなスキルを持って支援できるかについて考える。

5

（作成：レスキューストックヤード代表理事　栗田暢之）

東海地震に備え「受援力」をつけるために

―第４回静岡県内外の災害ボランティアによる救援活動のための図上訓練―

■■　はじめに　■■

東海地震説が出されて32年が経過します。これまで静岡県ではさまざまな防災の取り組みがなされてきました。とくに、阪神大震災以降は、ボランティアによる被災地の支援活動も注目されるようになり、災害ボランティア団体や社会福祉協議会などによる活動も広がりを見せています。

本協会では、本年度も「静岡県内外の災害ボランティアよる救援活動のための図上訓練」（主催・共催：静岡県、静岡県労働者福祉基金協会）を行いました。平常時から県内外の災害ボランティアと関係者が信頼関係の構築と情報交換を行ない、災害時に県外の災害ボランティアの協力を得ながら救援活動を迅速に進めていく広域支援の仕組みづくりを考える場として、４回目の開催となりました。

■■　全国から集結　■■

今回の訓練は、静岡市民文化会館を主な会場に２月21日から22日の２日間に渡り実施され、２日目には賀茂地域の訓練を県下田総合庁舎で同時に行う大規模なものとなりました。

訓練には、大分・宮崎・徳島・高知・兵庫・大阪・三重・愛知・山梨・新潟・神奈川・東京・茨城・栃木・山形など県外から102名が、また、県内からは31市町のチーム

参加者と県・事務局関係者等を合わせた241名の、総勢343名が参加しました。

■■ テーマは「受援力」■■

訓練は、昨年に引き続き富士常葉大学環境防災学部小村准教授の監修・指導のもとに、訓練の実施主体「東海地震等に備えた災害ボランティアネットワーク委員会」メンバーらが要所要所を応援する形で取り組みました。

東海地震に備えたボランティア活動を考えるためには、まず関わる人たちがその被害想定を正しく理解し、県内全域だけでなく近隣県にも及ぶ大きな被害が地域にもたらす状況を具体的に考えることが必要です。その上で「何ができるのか」「何ができないのか」、また「できないのならどうすればよいのか」を検討することにより、はじめて現実的な備えが出来るのではないでしょうか。

私たちには「自分たちでできることは自分たちでやり、できないところは手伝ってもらう」ための「受援力」が求められており、今年の図上訓練はこの「受援力」をテーマにしました。

■■ 訓練に先立ち事前課題 ■■

今回、県内の方には市町社会福祉協議会を窓口に、市町ごとのチームを組んで参加いただきました。また、２日間の限られた訓練時間を有効に使うため、参加者全員に「事前学習」をして来てもらいました。

県内の参加者は、自分たちの住む市町がどんなまちなのかを確認し、東海地震が起きた際の被災時イメージを、できる限り事前にチームで話し合った上での参加となりました。県外の方も、東海地震の被害イメージや、県外から駆けつける支援者として予測できる状況を可能な限り考える事前学習を行い、当日に臨みました。こうした事前の取り組みが行われたことから、２日間の訓練は開始直後から熱気に包まれるものとなりました。

■■ ２日目

賀茂の訓練は下田で実施■■

２日目には、静岡市の訓練と同時に、下田総合庁舎で賀茂地域の訓練を行いました。下田総合庁舎には、東海地震の際、実際に賀茂地域のボランティア活動の広域支援拠点となる「県災害ボランティア賀茂地域支援センター」が設置されます。下田市、東伊豆町など管内１市５町の地元参加者と、神奈川県の災害ボランティアや静岡県関係者などが一緒に取り組みました。

訓練に参加した賀茂地域防災局の前田局長は、「今回初めて実際に神奈川県のボランティアが駆けつけるという、具体的に顔のつながる訓練ができた。訓練を行なえばさまざまな課題が出てくる。ボランティアの訓練は、関係を持ち続けていくこと、訓練をやり続けていくことが大事なのだと感じている」とコメントしています。

今回を契機に、賀茂地域支援センターに今後も神奈川県の災害ボランティアが関わり続けていくことで、さらに訓練の内容を充実させていくことが出来ると期待しています。

■■４地域防災局管内の訓練実施■■

東海地震が起きると静岡県は全域で大きな被害が出ると予想されています。訓練を通して、参加者

■２日間の訓練構成■

【第１部】
東海地震で静岡県内の市町はどのような被害を受けるのか

【第２部】
時間の経過に伴い、被災者が求めるもの（ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱﾆｰｽﾞ）はどう変化するか

【第３部】
「支援を求めている人々」とはどういう人々？ー参加団体の普段の活動を通してー

【懇親会（情報交換会）】

【第４部】
“最初の１ヶ月”必要とされるのはどんなボランティア？

【第５部】
“最初の１ヶ月”必要とされるボランティアの確保に目途はつくか？

ＮＴＴ西日本静岡支店に感謝

訓練２日目、主会場となった静岡市民文化会館と、賀茂地域の訓練を行った静岡県下田総合庁舎（下田市 中）の間で、インターネットを利用した映像会議を試みました。画像通信を行うために、ポータブル衛星の使用や臨時回線の設置など、費用換算すれば大変大きな技術協力をいただいたことに心から感謝申し上げます。

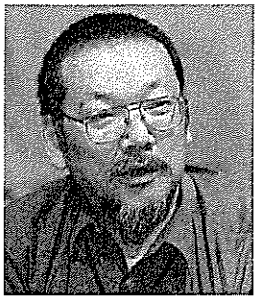
全員がその被害の大きさを改めて知ると同時に、長期、多岐にわたるボランティア活動にどんな人が必要なのか、誰がそれを担えるのかを考えました。

市町のボランティア本部ではどこまで人の確保ができるのか、管内市町のボランティア本部をサポートする県支援センターはどうなのか、具体的な人材（人財）確保の計画が必要です。今回、下田に神奈川県の災害ボランティアのメンバーが出向いたように、今後は東・中・西部についても、県災害ボランティア支援センターごとに各地域の県内ボランティアと県外ボランティアが共に行う訓練を広げていくことが大切だと思います。実際に地域へ出向き、県内外の参加者が一緒に考えることは、県外のどこの人たちの応援が得られるのかを具体化するのにとどまらない成果につながるものと考えます。

今回の訓練テーマである"授援力"について、東海地震等に備えた災害ボランティアネットワーク委員会の村井雅清氏（被災地ＮＧＯ協働センター代表）よりメッセージをいただきました。

―災害時に備えて"受援力"を高めるために―

被災地ＮＧＯ協働センター　代表　村井雅清



村井雅清氏
被災地 NGO 協働センター代表・CODE 海外災害援助市民センター事務局長・理事

"受援力"って、聞き慣れない言葉ですが、みなさんはどのようにイメージされるでしょうか？この図上訓練にあたって言い出しっぺの一人として、少し考え方を示したいと思います。災害に関しての受援力ですから、直感的なイメージとして浮かぶのは、災害時における多彩な支援活動に対して、被災者側の支援を受ける力と理解できるかと思います。ただ"力"にはなんとなく馴染まないという指摘もあり、ここでは力を「知恵」と理解して説明をしておきたいと思います。具体的にシミュレーションして見ますと、例えば人口３，０００人の地域に、一日２，５００個のおにぎりが支援されることになりました。有り難いことですが、３，０００人いますので最低１個でもすべてに平等に配られるためには、あと500個調達しなければならない。阪神・淡路大震災ではこういうケースの時に、あと500個待っている間に、２，５００個が冷たくなって食べられなくなってしまった。という事態を招いたのです。では、こういうことにならないためにはどうすればいいのだろうか。「優先順位を決める。」「半分に割って配る。」などなどさまざまな考え方があります。答えは、日頃から、地域においてこうしたケースでの対応策を考えておくということに尽きます。これが地域の"受援力"ではないかと思います。ある意味で「正解」はないのです。さまざまな援助をスムースに受け入れるには（あるいは場合によって、断る場合にも）事前の合意が必要ということではないでしょうか？従って、今回のような図上訓練を通して、あらゆる想定をしながらのシミュレーションをしておくことも大切です。私は、そのために災害が発生し、その後の応急対応期があり、その後には復旧・復興期があり、日頃の取り組みとして事前の備えがあるという減災サイクルを主張しています。是非一度、減災サイクルに添っての訓練をやって頂ければより"受援力"が体感できると思います。